



## 戦国大名の政治的拠点

3年 組 番( )

次の史料は織田信長の生涯をまとめた『信長公記』の一節である。信長は、琵琶湖のほとりの安土に拠点とした。その安土で火事が起こった出来事をめぐる記録である。



1月 29 日、安土で家臣の福田与一の家から火事が起きた。妻子を安土へ越させていなかったがための火事であり、そのことを聞いた信長公はただちに処置を下した。家臣に命じて自分の家来が安土に家族を呼び寄せているかを確認させたのである。その結果、120名の者が故郷に妻子を残したままになっていることが判明し、信長公はかれらを一度に処罰した。また信長公は、息子の信忠殿に命じて、故郷に妻子を置いている家来の私宅に火を放った。このため120名の者の家族は、故郷を離れ、安土へ移り住むこととなった。

(『信長公記』巻十一)

問1 史料からどんなことがわかりますか。

戦国大名は、絶対的な君主のイメージが強い。しかし、実際は家臣との話し合いを中心に政治を行っていた。家臣たちはそれぞれに土地を領していたが、戦国大名の領国を円滑に運営していく仕事をするため、あるいは戦いの際の出陣に備えて城下に屋敷を持つことが必要があった。そのため、戦国大名は家臣の屋敷を配置するために、城下町を拡大する必要が生まれ、広い土地を必要としていた。

問2 上記の説明を参考に、戦国大名の政治的拠点としてはA～Eの場所の中ではどこが適していると考えますか？(複数可)

選んだ場所

〈 選んだ理由 〉